

脳出血は、50代から60代の人に多く、血圧の高い人に多くみられます。

血液が7分以上停止すると酸素がとどかず、脳溢血が起ります。又、血圧の高い人が急に血圧の低くなった時に起ります。平素、血圧の高い人が、血圧が下つたような時が危険なわけです。(血圧の強さは、首を切つた時、3階あたりまで血が登ると云われております。)

脳軟化は、50代から70代に多く、脳の血管にたまる、コレステロールによります。

脳栓塞、血管がつまり、心臓のあかがたまるもので、心臓の悪い人に多くみられ、若い人にもあります。

脳血栓、老化により、色々なものが血管につまり、これは、時間的にゆつくり来ます。

都会の人に最近脳血栓が非常に多く、これは、脳卒中等に注意をしすぎたため、クスリ、食事の問題等で、血管自体に栄養がとれず、細くなり、血のめぐり、弾力性が欠け、コレステロールがたまり、脳血栓になる例が多くあります。血管の強さは、最低90から、最高150等と云われていますが、プレッシャーして見ると健康なもので、600迄上つても、破れないとされています。

動脈硬化は最近花形ですが、これは、長い年月を継て、その状態になつたのですから、食餌療法によりましても、その後の全生涯にわたり、継続すべきものでありまして、過状に急いで下げて見ても、何んら治療的意義はないのです。高血圧に対しても高いコレステロールに対しても、一旦侵入した敵は、仲々シブトク、我々は、長期戦で戦わねばなりません。良き参謀の主治医を持ち、Case by Caseで作戦をたてるべきであります。

◎表題にありますように、国際理解週間中であります。

プログラム委員長より、ミス・ワーレン(遺愛高)のスピーチを予定しておりましたが職員会議のため、おいてになれなくなり、私が、国際委員長なので、一寸お話し致します。4月19日、江差で行なわれますインターンテイ・ゼネラル・フォーラムの席上、動議として提出する予定しておりますが「ビアフラに対するロータリーの態度」を提案して見たいと思います。

ビアフラの問題は急を用し、すぐに救いの手を差しのべ、そして、大きいものでなければなりません。地区別にするか、日本全体にするか、意見が多数でございました。又その他の問題がありましたら、私の所、あるいは、幹事の方へお知らせ下さいませ。

次回例会日 4月1日です。

REVIEW AND RENEW (F・コンウエイR.I.会長)  
再検討し 刷新しよう



1970. 4.1

1969~1970 第38号

第293回例会



菅原 靖 会員

本日のプログラム

卓話 “風疎竹に来たる”

遠藤尚義 会員

◎出席報告

45.3.25 会員数 46名 出席 33名 欠席 13名  
前回出席 会員数 46名 出席 38名 欠席 8名 メイキャップ 6名  
出席除外 1名 97.78%  
他クラブ状況 函館R.C. 95.98% 函館東R.C. 100% 五稜郭R.C. 96.43%

第292回例会記録

◎司 会 外山定男 会長 ◎育 唱 手に手つないで  
◎ゲ ス ト 加賀栄治先生 北海道教育大学教授  
◎ビ ジ タ ー 小松俊雄君 (小樽南R.C. 保存食品製造)  
函 館 R. C. 加藤政雄君 外9名  
函 館 東 R. C. 笠井貞義君 外8名  
五稜郭R.C. 西村雅吉君



1970. 4. 15

1969~1970 第40号

第295回例会



菅原 靖 会員

本日のプログラム

卓話 "みどり学園の現況"

五稜郭病院長 笹島吉平先生

◎出席報告

45.4.8	会員数	46名	出席	31名	欠席	15名
前回出席	会員数	46名	出席	35名	欠席	10名
			出席除外	1名	100.00%	
他クラブ状況	函館R.C.	90.98%	函館東R.C.	95.95%	五稜郭R.C.	96.43%
3月平均	函館R.C.	92.64%	函館東R.C.	98.14%		
	壱館五稜R.C.	95.54%	函館北R.C.	96.55%		

第294回例会記録

- ◎司 会 木屋守迪副会長
- ◎ゲ ス ト 道南青年の家会教育主事 福原昭三氏
- ◎ピ ジ タ ー 新保英二君(白糖R.C. 定置漁業)  
坂高麗左衛門君(萩R.C. 陶工業)  
函館R.C. 小畑信愛君 外8名 函館東R.C. 笠井貞義君 外8名
- ◎音 唱 それでこそロータリー

◎幹事報告

- ①4月3日五稜郭R.C.夜間例会に変更於明月園PM5時30分
- ②配布致しました4クラブのテレトリーの地図、五稜郭R.C.の庄司君の寄贈

◎卓 話 "中国のゆくえ" 北海道教育大学 加賀栄治先生

毛沢東の生まれは、1983年であるから年は77才である。20世紀の中国のあゆみは大ざっぱに云って毛沢東の苦斗の歩みであると云えよう。その意味からもこの略年譜は一応その足跡を示しているものである。1921年28才の時に中国共産党創立大会(正式発足)が行なわれた。これを第一回全国代表大会(一大大会)といい、昨年9月9日全大会が開かれる迄つづいて来ている。この全大会の都度、党の綱領、規約が変り一つの区切りとなっている。この一大大会から九全大会迄の歩みはそのまま毛沢東の歩みに一致している。今後毛沢東は何年生きるか知れないがその思想は各大会に於いて出され、更に発展、変革を続けていくであろうと思われる。20世紀の中国は、西欧近代化の波に押し寄せられ、つまり植民地政策の圧力により、その苦しみは大変なものであった。日本は明治維新等で西欧の近代化を学びとり、急速な近代化をはかったけれど丁度その頃は明治33年あたりが清朝の終り頃であった事から考えると「寝た大国」で近代化を吸収出来る基盤すらなかった。つまり中国はヨーロッパ近代のタイプである民主主義政治に対しては、拒否をしつづけたと云えるのではないが、又もう一つのタイプであるソ連社会主義に対しては同じであった。何れにしても方法論的なものは、学ぶけれど中味については、拒否をして来ている。即ち米国は西欧近代化のチャンピオンであるがこれを米帝国主義と呼びソ連は修正社会主義とよび共に米ソは中国にとって「二大敵」視をして受け入れることをさせず、今日迄拒否をしつづけて来ている状態である。紅衛兵で有名になった、文化大革命は昨年9日全大会の前に一応終りとなった。九全大会で党の規約等が変更されたりしたが依然として米ソで代表される西欧化の拒否はつづいているが米中、中ソ会談なるものは、開かれていく。しかし、これ等は何時結論が出るか判らない。文化大革命は党にとっては整風運動であり、これは党内の学習態度や論争を整える、つまり色々な方法や理論を一定の方向づけをすることであって、1942年からはじめられた。1957年には右派派闘争がはじまり党内の右派に対する圧力をかけはじめた訳である。そして1965年に文化大革命として火ぶたが切られ、党内の批判という形で現われて来た。その流れは資料を見ていただきたい。当初新聞等では、魂の変革が大切とされていたのが次第に幹部への批判から幹部の追放となって来た。党は常に民衆をリードすべきである。幹部は民衆の核心となれ、中核となれと云われている。即ち大衆の中に入り、大衆に批判され大衆が盛り上ると共に盛り上がりねばならない。そのために若い有望な人は農村へ行って(下郷という)常に農民と共に生きその気持ちを知らなければならぬとしている。つねに中に入って中から出るから、絶えず「整風」という事が出て来る。文革はこれで終わったのではなく、今後もまだ行なわれる可能性は大いにある。

中国に於いて現在毛思想の学習が非常に強調されている。その地位は7全大会で確立されたがそれは1945年、日本降伏の年であった。現在では毛沢東東語録の学習が全国的に広まっていて毛沢東は神格化され、毛思想そのものは、中国を統一する手段として使われたと云う目で見ない方がよいと思う。既に党風=整風=毛思想と云うことで極めて自然的な相関関係があると思われる。理論的な内容を示めさないで運動はこうした方がよいとか方法はこうした方がよいとか、方法論のみを出している。マルクス、レーニンの理論内容を武器として方法論に展開して使っていくと云う事である。中国には何処にもない秀れた伝統をもっているんだと云う考えがあるから既成の型にはまり、はめられる事を非常に嫌うし今迄常に批判し乍ら進んで来ている。その様な事から考えて来ると毛沢東自身の中にあるものは、伝統的中国の思想ではないかと思う次第である。元京大教授の貝塚氏は、毛理論の中には、中国古来の思想である、孟子等の思想がある様にさえ見えると云っている。中国の今後を考えるためには、計謂る土着思想はどう云うものであるかと云う事を認識する事が大切ではないだろうか、認識不足のために我々はあんな戦争をしたのではないだろうか、今後共私を含めてそういうものを大いに勉強していかなければいけないと思う。

次回例会日 4月8日です。

REVIEW AND RENEW (F・コンウエイR.I.会長)  
再検討し 刷新しよう